

# 埼玉県現代俳句協会報

第90号 (2026年3月20日)

## 第23回 埼玉県現代俳句大賞

### 《大賞》

「ひと恋し」

森 由美子

鳥雲に生家はやさしきひかりの中  
眠るまで朧かなでるオルゴール  
春彼岸謎めくセピアの写真帖  
籐寝椅子ゆつたりたつぷり老いは来る  
白玉や幼なじみの噛みごたえ  
ががんぼふわふわあの人もういない  
ひと恋し葡萄の種をさぐり出す  
堪えかねて気化してわたし芋の露  
虫たちの軽い寝息をきく花野  
秋空を堂々占拠蜘蛛の陣  
背後より不要不急という寒さ  
「沈黙」を閉じれば遠く冬の海鳴り  
狐火を抱き虚しさを口にせず  
からからと乾鮭さばさばとひとりかな  
ながらえて寒夕焼けという極み

《大賞受賞のことば》

この度は埼玉県現代俳句大賞を頂き誠にありがとうございます。この栄えある受賞は、不勉強な私を励まし引つ張り続けて下さった良き先生方や俳友の皆様との楽しい時間の積み重ねの上に輝いていると思っております。人生の中で一番自由で気ままに過ごせるこの時期に、更にはいただいたこの幸運。明日羽が生えて空を飛んでいるかもしれない。そんな私ですがどうぞ今後ともよろしくご指導お願い申し上げます。



《経歴》

- 一九四一年 東京都生まれ
- 二〇〇一年 「海程」入会
- 「海原」同人
- 二〇二〇年 「第二回海原金子兜太賞」奨励賞受賞

### 《準賞》

「糸蜻蛉」

坂川 花蓮

軽やかに彼方此方へ春の雲  
風光る歌ふごとくに波揺れて  
反射する横断歩道夏兆す  
街灯に浮き立つ雨や夏の宵  
泉へと下りゆきたる風の道  
柔らかき草かすめゆく糸蜻蛉  
薄紙に透けてほのかに桃匂ふ  
気急ぎの午後のひととき法師蟬  
石段のかすかな湿り初紅葉  
秋菜莢や記憶かすかに舌の先  
シネマ出で釣瓶落しの街あかり  
忙しき一日過ぎゆき酔芙蓉  
秋夕焼森へと帰る鳥の群れ  
流星やひとつふたつと夜満つる  
夜を穿つ千の翅音や虫の闇

《準賞受賞のことば》

この度は埼玉県現代俳句準賞をいただきありがとうございます。父が俳人でしたので俳句とは距離を置いてきました。2016年に友人から句会に誘われ俳句を始めました。今回の準賞は思ってもいなかったのでも嬉しく思っております。まだまだ知らない語彙などが多くあり、俳句の奥深さをつくづく感じる日々です。現在はいろいろな所でネット句会等に参加しています。この受賞を励みに数多くの俳句を読み込み多作多捨に励みます。



《経歴》

- 一九四八年生まれ 春日部市在住 坂川花蓮
- 二〇一七年 朝日カルチャー通信講座金子教室のち 武田教室
- 二〇一九年 海原入会
- 二〇二一年 海原退会
- 二〇二〇年 鷹俳句会入会、2025年鷹同人

### 《準賞》

「私雨」

本橋 稀香

紐ほどく様にものの芽ほぐれたり  
つくづくし微笑みつくし立ちつくす  
紅は鳥の貌にも花曇  
山吹や疎水は音も無く迅く  
花は葉にエンディングノートまだ書けぬ  
夭折の画家とや徹の骨董市  
ざぶざぶと水を豊かに冷素麺  
ふんだんに朝顔咲かず鄙住まひ  
蛸や私雨の止む気配  
走馬燈モノクロ写真を青白く  
渋滞の尾灯遙かに天の川  
土手伝ひ赤の氾濫曼珠沙華  
日向ぼこひたに耳搔く猫の塵  
空堀の中の道ゆく返り花  
恙無き今日を消しゆく夕時雨

《準賞受賞のことば》

今回の受賞を心から御礼申し上げます。見沼田圃に近く隣家が園芸農家という好条件に恵まれて俳句を続けています。今の時期は出荷前の梅の鉢植が並び、その横には大根と白菜畑、木守柿に集まる椋鳥や鶉、いきなり丈高く咲く皇帝ダリアが窓越しに眺められます。目に止った句材がすぐに句にはならなくても何かに触発されて一句になった時の嬉しさは格別です。これからも地に足の着いた句を詠んでいきたいと思っております。



《経歴》

- 平成三〇年 公民館俳句同好会入会
- 令和二年 水明入会
- 令和三年 水明新珠賞受賞 水明同人
- 令和三年 現代俳句協会入会

第23回 埼玉県現代俳句大賞2025年 上位得点一覧と入賞作品

今年度は上位6位までの顕彰となります

Table with columns: 賞名, 順位, 得点, 作品番号, 題名・作者名. Rows include 大賞 (1位), 準賞 (2位), 準賞 (3位), 佳作 (4位), 佳作 (5位), 佳作 (6位), 次点 (7位), 次点 (8位), 次点 (9位), 次点 (10位).

《応募作品》

Table with columns: 番号・タイトル, 氏名, 番号・タイトル, 氏名. Rows include 1 夢のつながり, 2 梅の花, 3 長い夏, 4 会いたし, 5 秋 雑詠, 6 四里の道, 7 晩節, 8 和花, 9 ぼくらのほし, 10 ひと恋し, 11 冬眠の書架, 12 秋思, 13 ひかりふるふる, 14 バランスボール, 15 祭, 16 鳥と, 17 胸を張る.

第23回 埼玉県現代俳句大賞 (2025年) 選考結果

Table with columns: 選者名, 順位得点, 1位 (6点), 2位 (5点), 3位 (4点), 4位 (3点), 5位 (2点), 6位 (1点), 7位 (1点). Rows list winners and their works.

\* (岩淵喜代子氏は体調不良につき選考を辞退されました)

令和八年度定期総会・一句会

さいたま文学館 (3月7日)

入選者

Table with columns: 順位 (1-15), 入選者 (埼玉県現代俳句協会 会長賞, 埼玉県俳句連盟 会長賞, 水温み安易がなだれ込んでくる, etc.), 作品 (春の雷わたしのなかの金属音, etc.).

# 俳句と出会い 人生は始まる

吉川 拓真

拙作「かをる暑さ」が、二〇二五年十一月二十九日に、全国俳誌協会第五回新人賞 錫田智哉奨励賞を受賞したご縁で、ありがたいことに埼玉県現代俳句協会より、本寄稿の依頼をいただいた。私は、埼玉県の大宮育ちでも大宮に住んでおり、埼玉県人らしく地元への愛はそこまで大きいというわけでもなかったが、大宮という住心地の良い町も、数々の偉大な俳人を生んだ埼玉県という県にも、三十七歳になってようやくその魅力に気づき始めてきた。

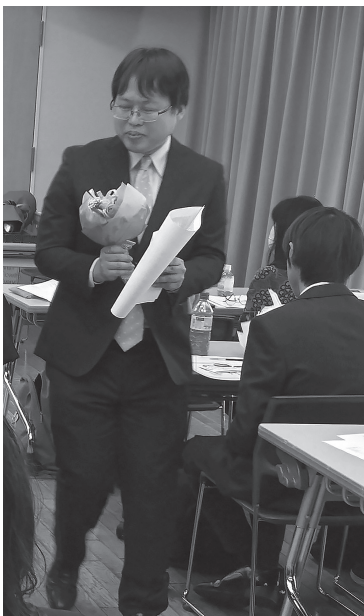
悲しいことに、私は社会人になるまで俳句と出会うことはなく、俳句と通り過ぎることはあったかもしれないが、母校の芝川小学校、第二東中学校、大宮高等学校では、俳句の存在を全く気にすることすらしていなかった。私の側にも問題があったであろう。高校の田村先生からは古典の文法を中心に教わり、唯一学年で一位を取ることができた教科であったが、まさかそれが大人になってから俳句という形で生きてくるとはこの時には夢にも思っていなかった(田村先生、ありがとうございます)。今になって思うことは、俳句は教え方次第で、人間力を鍛える教材ともなるということである。もっと早く俳句と、そして俳人の先輩としっかりと出会えていれば、私の運命の針はまた別の方向を指していたのかもしれない。昔から私は目的地向かい真つ直ぐに進むタイプの人間で、ひたすら司法試験に向けて日々頑張っていたのであるが、突き詰めるあまり徐々に視野を狭くさせていたのであろう。心に不調をきたし、一切本を読むことができなくなってしまう。また、大好きなテレビでさえも観るのが辛い状況であった。半年ぐらいはただ寝て過ごしていたと思う。おそらく、家族と、また、個人の権利

を大事とする憲法の問題がなければ、今無事に生きていたかも怪しい。

夢は諦める形で、とにかく生きるために働かなければならないという思いで勤め出したのが、今の職場である。働ける場所があったのは大変ありがたいことであったが、特技を失った私はかつてのような自信は自分に持てぬまま日々を過ごしていた。

出合いは突然である。そんなとき、母親が面白いテレビ番組があると勧めてきたのだ。TBS系列のバラエティ番組「プレバト!!」である。夏井いつき先生の素晴らしい添削や鑑賞、芸能人の方々の素晴らしい俳句の数々を観て、俳句の面白さに気づいたのである。そして、書店で俳人の高柳克弘さんの著作の『NHK俳句 作句力をアップ 名句徹底鑑賞ドリル』(NHK出版)という一冊の本と出合い、俳句の思考法は、これまで学んできた法学における法的解釈に通じるものがある、俳句の世界で頑張ればこれまでの努力が無駄にはならないかもしれないと、自ら感動する部分があった。これが私と俳句との出合いである。二〇一九年五月、三十歳である。

その後は、怒涛の六年であった。夏井いつき先生関連のインターネットでの俳句の公募を通じてSNSの「Instagram」での句友たちとの交流を開始、リアルでの句会をやりたいために最も自宅に近い場所に見つけた「水明」に入会、「水明」の投句をご覧になったことをき



かけに「こんちえると」からお誘いがあり「こんちえると」に入会、俳人としての光を感じる憧れの神野紗希さん代表とする「noi」に入会し、今に至る。

法学部で学んだ法解釈の技法も、判例を読み解く力も、論文を書く力も、俳句と出会うことができなかつたら、暗い水底に沈んだままだったはずである。今はそれらは、俳句を読む力に、句集を分析する力に、そして、こうして今執筆させていた力に繋げることができた。

三つの俳句団体に所属していることも、私には一つひとつの意味があった。

「水明」の素晴らしい先輩たちと出合い、人間の優しさや繋がり大切さに気づくことができた。句会の場を通じて、コミュニケーションの難しさと、それ以上のコミュニケーションの楽しさを学んだ。イベントやホームページ更新の手伝いを通じて、自分に合わない業務も粘り強く頑張る大切さを学んだ。

「こんちえると」では、選句をする場や、執筆をする場を与えてくださり、選ぶ力、書く力を総合的に鍛えさせてくださった。

「noi」では、年齢の近い句友と初めて会うことができ、仲間の大切さをひしひしと感じている。友達がいなかった私は、おそらくここで、仲間と話すことをこれから学んでいくことになるのだろうと思う。憧れの神野紗希さんとも近くで話すことができると思ってもいなかったわけで、やはりこれは俳句のおかげであるし、人間は最期の最期までどうなるかはわからないということなのだろうと思う。もちろんそれはこれからも、である。十七音の俳句にはとてつもないパワーがある。一つは俳句それ自体が持つ力である。宇宙のような無限の世界がある。また一つは俳句をきっかけにたくさんの俳句以外の世界と繋がることである。吟行を通じて普段行かない場所を訪ねることもできる。また一つはたくさんの人と出会うことである。これが一番私にとっては大きかった。俳句が私の世界を広げてくれたのである。

90号諸家近詠一句

- |                  |               |                  |               |               |                   |                 |                |                   |               |               |               |                                     |             |                 |                  |                |                |                 |                 |               |              |                |               |               |              |              |                |              |
|------------------|---------------|------------------|---------------|---------------|-------------------|-----------------|----------------|-------------------|---------------|---------------|---------------|-------------------------------------|-------------|-----------------|------------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|---------------|--------------|----------------|---------------|---------------|--------------|--------------|----------------|--------------|
| 25               | 24            | 23               | 22            | 21            | 20                | 19              | 18             | 17                | 16            | 15            | 14            | 13                                  | 12          | 11              | 10               | 9              | 8              | 7               | 6               | 5             | 4            | 3              | 2             | 1             |              |              |                |              |
| ブルトップ引けば梅雨野のまん中に | 映画館出て新涼のランウェイ | 時間とうしつこい追手夕涼み    | 老骨の完歩賞なるものこづち | 丹田の上下左右に熱帯夜   | カーテンのふはりパセリをひとつまみ | パンゲアの一部でありし冬田打つ | 喋ること好きな妻ゐて夜の長し | 黙禱の後は屈みて梅を干す      | すべて亡き人の遠足写真かな | 秋思ふと紅ひく唇の乾きかな | 誕生日大きな桃を割つてみる | 秩父路雨一水の東流 <small>しづりゅう</small> 曼珠沙華 | 草の実や永劫落とす館跡 | 胸で聴くファドの調べよ夏館   | 会いたいをラムネの壺へ閉じ込める | 平和な日平和な怠惰秋平和   | 影武者の影に影あり影法師   | 百日紅墓地に咲きけりただひとり | すずむしととけていく夜吾還暦  | 乱れるか馬の尾ゆらぐ螢の火 | 灼熱の星から聞こえる悲鳴 | 敗戦忌何も知らずに立つていた | 天と地と色なき風に包まれて | 戦果などあつてはならじ初詣 |              |              |                |              |
| 大石 壽美            | 本橋 稀香         | 森 由美子            | 宮本 豊子         | 藤澤 晴美         | 木下 周子             | 尾提 輝義           | 石原 道明          | 松居 一江             | 一の橋世京         | 石井 喜恵         | 青柳 洋子         | 吉澤 祥匡                               | 井上 燈女       | 五明 昇            | 植 朋子             | 竹下 潤子          | 田口 鷹生          | 清水 克郎           | 遠藤 久美           | 高橋 亨          | 高梨 武州        | 境 延昭           | 岡田 美幸         | 山崎 十生         |              |              |                |              |
| 54               | 53            | 52               | 51            | 50            | 49                | 48              | 47             | 46                | 45            | 44            | 43            | 42                                  | 41          | 40              | 39               | 38             | 37             | 36              | 35              | 34            | 33           | 32             | 31            | 30            | 29           | 28           | 27             | 26           |
| 助けてもらふ練習芒原でした    | 静脈の鬱滞バイパスの雪野  | じゃんけんの途切れぬ姉妹いわし雲 | 草虱つけ企ての二つ三つ   | 故郷は月へと抜ける道のある | 舌の根に貼りついていて大暑     | 稲妻の闇夜を闇が縫ひ合はす   | つくづくし飢えの世代の卵綴じ | 老いかこつスポーツの日のスタワット | 蛇穴に入る脈絡を考える   | 絵になるや野分の森を画学生 | 雁渡しふいに憶良の反歌など | 秋高し街を脱して稲を刈る                        | 寒月や薨を競ふ街の上  | 絵のなかに絵がある秋の貌がある | 糞虫の揺れ幅十分な余白      | 地球儀を回して銀河まはしけり | サッカーの子に行き渡る秋の空 | ひから傘ひとり歩きに慣れました | 彼岸花「めん」とかけ声背に届く | 人間に無数の穴や汗しとど  | サーカスのごと鱗雲頭れた | 一喜一憂一長一短日脚伸ぶ   | 檸檬の一弾蒼白なるレノン  | 日本の原風景や稲穂波    | 天高し成層圏も突き抜けて | 八月の沖に寄す波還らざる | 芒の穂生き生き覆ふ空き家かな | 緑蔭に正しく干され剣道着 |
| 篠原 葦             | 伊藤 進          | 渡邊 樹音            | 田中 朋子         | 越川ミトミ         | 山崎加津子             | 長澤 健次           | 野平美紗子          | 関根 道豊             | 鳥山由貴子         | 山本鬼之介         | 堀之内長一         | 保坂 翔太                               | 日高 道を       | 鈴木 牛後           | 杉本青三郎            | 中野 博夫          | 久下 晴美          | 北上 正枝           | 小林 水迷           | 金子 和美         | 小林 邦子        | 金子 斐子          | 石渡 清          | 池田 雅夫         | 飯田 忠男        | 渡辺 智恵        | 増田 信雄          | 鈴木 砂紅        |

埼玉県現代俳句協会では新会員を募集いたします!!

埼玉県現代俳句協会会長 杉本青三郎

お知り合いのお仲間を是非お誘いください!  
お待ちしております。

入会申し込み先：鈴木牛後事務局長宛  
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-8-26-302 電話 070-8438-0452

句会案内 会員募集中!

ブロック名	日時	場所	連絡先	TEL.
県南	隔月(奇数月) 第二金曜日3/13	川口市幸栄 公民館	後藤よしみ	048-432-2320 yoshimi510gt @yahoo.co.jp
県西	3か月に一度 4/20	ウェスタ川越 川越駅徒歩5分	古橋 淑子	048-478-3563 yfuruvieux2019 @gmail.com
県東	通信句会		鈴木 砂紅	048-982-5166 sakoh1950 @yhoo.co.jp

- |           |                 |               |             |                 |               |               |                 |             |                  |
|-----------|-----------------|---------------|-------------|-----------------|---------------|---------------|-----------------|-------------|------------------|
| 64        | 63              | 62            | 61          | 60              | 59            | 58            | 57              | 56          | 55               |
| 金剛の一番星や金叩 | 「ありがとう」が口癖の夫冬日向 | 歳時記の狂いだしたる翁の忌 | 銃口が覗く九条そぞろ寒 | 誰からも好かれてひとり枇杷の花 | 茄子の馬この馬を食ふ終戦日 | 村山さん白寿生きぬく空高し | 空屋また増えたり草は実にならむ | 玉に瑕瑕なき玉や菊日和 | 全てに気づいたら檸檬じゃないんだ |
| 柳澤 二重     | 中山 洋子           | む つ           | 金子まさ江       | 秋永 悦子           | 原 博子          | 神田 一美         | 江田尚可子           | 小高 政子       | 宮澤 順子            |

選者が選ぶ

90号諸家近詠10句選

◆久下晴美選

◎カーテンのふはりパセリをひとつまみ 木下 周子  
料理の彩りとして皿に添えられるパセリ。栄養価が高いのに、苦みのせいか残される事が多く、つい脇役に甘んじてしまっている。  
掲句は、その（パセリ）にスポットを当てた。ひとつまみされたパセリは、バスタカスプに掛けられたのだろう。（カーテンのふはり）を取り合せることにより、軽やかでおしゃれな句になった。なぜカーテンが揺れたのか。風？ 来訪者？ など様々な空想が広がる。それは掲句が片仮名と平仮名のみで構成されているからであろう。思考が柔軟になる。

◎緑蔭に正しく干され剣道着

鈴木 砂紅

剣道着や袴は、直射日光を避けて風通しの良い場所です。裏返して陰干しするのが、正しい干し方らしい。直干しだと日光により変色したり、ゴワゴワになってしまう。言われてみればその通りだが、なるほどと納得してしまった。

中七（正しく干され）がいい。木々の葉音が聞こえる物干し場に整然と干された剣道着。清々しい景だ。それを着るのは少年だろうか。気持ちよく稽古出来るようにと洗って干す親ごころ。笑顔あふれる、正しい家族像が見えてくる。

- 草虱つけ企ての二つ三つ 田中 朋子
- 歳時記の狂いだしたる翁の忌 む つ
- パンゲアの一部でありし冬田打つ 尾提 輝義
- 映画館出て新涼のランウェイ 本橋 稀香
- 誕生日大きな桃を割つてみる 青柳 洋子

◆鈴木牛後選

◎敗戦忌何も知らずに立っていた

境 延昭

渡邊白泉の「戦争が廊下の奥に立ってゐた」を下敷きにしているのだろう。廊下の奥に立っていたのは歩哨などの具体的な個人ではなく、国全体を覆っていた戦争という得体の知れないものだった。そしてついに敗戦となったときそこに立っていたのは、何も知らされずに、あるいは知らないふりをして戦争に巻き込まれていった生身の人間だったのだ。そして今もそうではないのか、という問いかけが一句の向こうに見える。

◎一喜一憂一長一短日脚伸ぶ

金子 斐子

「一喜一憂」「一長一短」という形は似ているがまったく意味の異なる四字熟語を並べた。リズムが良く口誦性も抜群である。人生とはつねに一喜一憂しつつ過ごすものであり、ものごとにはすべて一長一短がある。それは日々の暮らしの中で身につけた諦念であり、また今日一日を前向きに過ごすための知恵でもあるだろう。「日脚伸ぶ」という季語の明るさがそのことを感じさせる。

- 丹田の上下左右に熱帯夜 藤澤 晴美
- 緑蔭に正しく干され剣道着 鈴木 砂紅
- 檸檬の一弾蒼白なるレノン 石渡 清
- 糞虫の揺れ幅十分な余白 杉本青三郎
- 稲妻の闇夜を闇が縫ひ合はす 長澤 健次
- 故郷は月へと抜ける道のある 越川ミトミ
- 茄子の馬この馬を食ふ終戦日 原 博子
- 歳時記の狂いだしたる翁の忌 む つ

◆辻村麻乃選

◎八月の沖に寄す波還らざる

渡辺 智恵

八月は終戦記念日があり、原爆投下など日本人にとっては特別な思いのある月である。八月を詠んだ句もたくさんある。  
海の波は寄せては返す。沖の波も勿論戻ってくる。それがこの句では返ってこない。「還る」という表現は戦争に行った兵士が無事に戻ることの象徴だろうか。戦争ではその兵士や失われた人の命が帰って来なかった。その還らなかつた人たちへな追悼の気持ちで沖の波に託されている。もうこのような悲しいことは起こらないで欲しいという願いや祈りも込められた句だと思った。

◎サッカーの子に行き渡る秋の空

久下 晴美

こちらは明るい印象の句である。スポーツの秋の空は澄み渡っている。その下でサッカーに興ずる子どもたち。どの子どももそれぞれ一生懸命に汗を流す。その子どもたち全てにあまねく平等に空はある。子どもたち全員に行き渡るのが日の光とされている。空が行き渡るとしたところに、作者の独自の視点を感じられる。子ども達の健やかなる未来を祈り、無事を願う思いやりの気持ちに溢れた句である。

- 会いたいをラムネの壺へ閉じ込める 植 朋子
- すべて亡き人の遠足写真かな 一の橋世京
- 丹田の上下左右に熱帯夜 藤澤 晴美
- 雁渡しふいに憶良の反歌など 堀之内長一
- 稲妻の闇夜を闇が縫ひ合はす 長澤 健次
- 空屋また増えたり草は実にならむ 江田尚可子
- 誰からも好かれてひとり枇杷の花 秋永 悦子
- 「ありがとう」が口癖の夫冬日向 中山 洋子

# 会員の五句

## 年新た

街角で喇叭吹く人社会鍋  
師走かな朴念仁と云はれても  
柚子風呂のゆずの一個が寄つて来ず  
年の暮コンビニに在る赤ポスト  
年男三日坊主の禁酒かな

飯田 忠男

## 深呼吸

初山河蒼天仰ぎ深呼吸  
目薬の目に突き刺さる寒の内  
頭上より寒月光の素粒子波  
厳冬の街角言葉巧みな占師  
来し方の波乱乗り越え春を待つ

(水明) 池田 雅夫

## 待春

AIに愛は有るんかちやんちやんこ  
妻の愚痴聞こえぬふりの頬被り  
齢とはあばら骨折る大くさめ  
昭和とは霜焼け出来る児がゐる日  
波風は立たぬ晩年日向ぼこ

(水魚の会) 高梨 武州

## 一升餅

加工品ばかり臍まで言いたげ  
促音をすつ飛ばしている鞆鞆  
「余程蛤なんね」ピアスに蒸気  
雪の果ノンカフェインじゃなかったの  
花月夜ノーマイクなるフル化粧

(紫) 宮澤 順子

## ひかり集めて

コスモス揺れ五感しずかに消えてゆく  
石榴の実ためらいもなく自己開示  
飛び切りのひかり集めて櫛紅葉  
ひやりと牡蠣わが身の虚ろすべりゆく  
雀いろどき温さまだある冬の窓

(海原) 森 由美子

# 各ブロック句会報

## ●県西ブロック 1・19

席題「川」の苦吟でシーン。全45句の選句でまたシーン。その後は、時々笑いあいの初句会。

川を越え日本晴なる初句会  
煮凝りてあらゆる方位うしなえり  
並び立つみかんさんかん兄妹  
昔なら跳べた川幅冬たんぼぼ

鉛の活字沈め冬の川となる  
七度目の干支迎ふるや初御空  
浚渫の砂粒光る春の川  
寒林を行くやいくぶん透きとほり

取り札に指紋たつぷり歌かるた  
秋惜しむどこをどう歩いてみても  
散り時は自分で決める金木屋  
星飛んで佇みにゆく記憶の瀬

三省堂の木の床軋む新学期  
※24年10月の再開第一回目句会から六回が過ぎた。  
三ヶ月に一回、川越ウエスタ川越で実施。

(25年4月出句)

衆目的のはぢらひ初衣装  
霜の原をちこちの石声上ぐる  
おでん屋の壁に大原麗子かな  
初風や口笛に犬跳んでくる

青木 鶴城  
石渡 清  
川本 利範  
小林 京子

鳥山由貴子  
長澤 健次  
林 生子  
古橋 淑子  
山崎加津子  
北上 正枝  
久下 晴美  
鈴木 午後  
藤 玲人

杉本青三郎  
岡田 美幸  
鈴木 砂紅  
田口 武

鳥山由貴子  
長澤 健次  
林 生子  
古橋 淑子  
山崎加津子  
北上 正枝  
久下 晴美  
鈴木 午後  
藤 玲人

一本の血脈流る枯木立  
右手袋落ちていたのは六本木  
ぼる市に皇軍慰問葉書買ふ  
ひざまずく寒暮の祈り頭陀袋

梯子乗り「め」組木遣りのハーモニ  
初春や小小吉の介護晴  
初御籤大凶引けば恐いものなし

後藤よしみ  
篠原 葦  
白石 正人  
杉本青三郎  
高木 宇大  
高梨 武州  
知念 哲庵  
日高 道を

## ●県東ブロック 2・15

楽しみのひとひら探す細雪  
煤払うやつと人間らしき貌  
縄文の土の匂える鋏始  
再会の句友羽毛布団の感情  
熊眠る非日常を悔いながら

雪しまく悲しいほどに登り坂  
灯油汲むその先に見ゆ戦火の子  
初富士や武蔵野線のホームから  
跡継ぎのいない豆腐屋冬灯し

阿修羅像一枚残し暦果つ  
重ね合ふ手の温もりと冷たさと  
先生を大好きな牛冬うらら  
梅東風や同じルーツの猫と犬

余生なお心の奥に走る野火  
人生は鈍感力とさわやかさ  
目覚めよと我が身に通す寒の水  
禁断の闇サイト林檎が赤い

ひび入らぬ不思議今様鏡餅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

遠藤 久美  
高橋 亨  
尾堤 輝義  
森 鈴  
森 光  
加藤 圭子  
和田 義盛  
杉浦 千祐  
宇田川良子  
石原 道明  
石渡 清  
丸山 うた  
近藤 萌  
金子まさ江  
原 博子  
坂川 花蓮  
西崎 久男  
鈴木 砂紅

第38回 全国健康福祉祭埼玉大会

ねりんピック彩の国さいたま2026俳句交流大会

主催：厚生労働省／埼玉県／さいたま市

一般財団法人長寿社会開発センター

共催：スポーツ庁

主管：埼玉県現代俳句協会／俳人協会埼玉県支部

日本伝統俳句協会関東支部埼玉部会

後援：一般社団法人現代俳句協会／公益社団法人俳人協会

公益社団法人日本伝統俳句協会

期日：令和8年11月8日(日)

会場：「大会会場」レイボックホール (さいたま市民会館お

みや) 大ホール

〒330-0846 さいたま市大宮区大門町二丁目

118番地 (大宮門街7F)

「吟行会場」武蔵一宮氷川神社・大宮公園周辺

「受付場所」門街広場 (大宮門街1階)

当日の進行予定：(変更の可能性あり)

(1) 午前の部 (吟行)

参加受付 8:00～10:50

当日句メロ 11:00

(2) 午後の部 (式典) (大会会場)

開会式 13:00～13:30

記念講演 13:30～14:30

講師 星野高士先生 (公益社団法人日本伝統俳句協会)

休憩 14:30～14:50

入選者の発表・選評・表彰

閉会式 14:50～15:50

15:50～16:00

投句規定：(詳しくは応募チラシ)

(1) 募集期間 ①シニア部門 及び②一般部門

令和8年4月1日(水)～6月1日(月)

②ジュニア部門

令和8年4月1日(水)～6月19日(金)

(2) 募集区分

①シニア部門 (60歳以上)

②一般部門 (60歳未満)

③ジュニア部門：小学生、中学生、高校生

《91号の諸家近詠の一句を募集！》

下の葉書を使って御応募ください。
85円切手を貼って投函ください。
たくさんの皆様の御応募をお待ちしております。

キリトリ
郵便はがき

〒362-0043

中野博夫行

上尾市西宮下2-74

85円切手を貼ってください。

【通信欄】

(一社)現代俳句協会のホームページには、様々な企画や情報を発信しています。いつでもどこにも見ることが出来ます。是非覗いてみてください。

春は新しい出会いの季節です。新しい環境にトライしてみませんか！
\*4月より俳句講座開催\*
\*動画 de 初心者講座 zoom 講師 後藤 章

\*俳句教室(対面) 午後1時～3時
\*月曜教室 講師 鈴木 午後
\*火曜教室 講師 田中 朋子
\*木曜教室 講師 佐怒賀正美

\*研修通信俳句会 講師 花谷 清・月野ぼな
\*2027年度版『現代俳句年鑑』に参加しよう！
ホームページからも申し込み出来ます(パソコンやスマホで)

締切5月31日 作品5句
\*現代俳句協会 YouTube
\*句集勉強会
第1回 後藤章×堀之内長一
第2回 望月哲土×なつはづき
第3回 山崎十生×網野月を
第4回 後藤よしみ×田辺みのる

がらんだう・がらんどう

「ありがとう」を歴史的仮名遣いでは、「ありがたう」と書きます。「とう」が「たう」になることがアタマにある所為か、「どう」を「だう」と書きたくありません。「同」「洞」「胴」「動」「童」「銅」「如何」などは歴史的仮名遣いでも「どう」のママです。「だう」になるのは「堂」「道」です。寺院の中で、伽藍神を祭つてある堂の「伽藍堂」は「がらんだう」です。間違いやすいのが、中には人や物が何もないこと、からっぽの意の「がらんどう」です。歴史的仮名遣いでも「がらんだう」とはならず「がらんどう」のママです。(会報編集委員)

キリトリ

受賞  
おめでとうございませう！

※第62回現代俳句全国大会

令和7年11月3日

「昭和俳句優秀作品」

《現代俳句全国大会賞》

とけきれぬ粉末ジュース夕端居

久下 晴美



※会員の新聞

◆岡田美幸さんが句集、詩歌エッセイ・評論集を上梓されました。  
『天使魚』  
『光のパイプオルガン』

埼玉県現代俳句協会参加マニユアル

埼玉県現代俳句協会では、インターネット句会を開催しています。  
参加してみたいという方の参考になるよう、手順を紹介いたしますのでお試しください。

〈まず会員登録から〉

- ①「現代俳句協会ホームページ」画面を開く
- ②「インターネット句会」をクリック
- ③次に「新規登録はこちらから」をクリック
- ④登録に「必要事項を入力」し「登録する」をクリック
- ⑤次に「投句をする」
- ①「インターネット句会画面はこちら」をクリック
- ②次に画面内「ID」と「パスワード」を入力し、「ログインする」をクリック
- ③次に画面「句会一覽」埼玉県現代俳句会 投句する」をクリック
- ④次の画面で「句会パスワード」[5桁,180]を入力
- ⑤作品を入力し、最後に「決定」をクリック
- ⑥これで終了です。

● 第3回俳句イン秩父 ●

令和8年6月27日(土)  
 場所：秩父宮記念市民会館けやきフォア  
 (西武鉄道西武秩父駅下車徒歩3分秩父市2F)  
 受付：11時 開会13時  
 当日句：席題1句(12時締切)  
 会費：1,000円(昼食・お茶の用意をする関係で  
 出欠を投句用紙にお書きください)  
 事前投句先：〒366-0811 埼玉県深谷市人見314-2  
 渡辺智恵 (☎0485-73-3513)  
 投句料：2句一組1,000円(2組まで)  
 締切：令和8年5月8日(金) 消印有効

● 事務局だより ●

令和8年7月12日 俳句大会  
 令和8年11月15日 ブロック長会議  
 令和9年2月21日 理事会  
 令和9年3月13日 定期総会

第90号 2026年3月20日 発行  
 発行人 杉本 青三郎  
 発行所 埼玉県現代俳句協会  
 〒332-0012 川口市本町2-6-22-103  
 電話 048-225-5603  
 編集責任者 田中 朋子  
 事務局長 鈴木 牛後  
 〒363-0022 桶川市若宮1-8-26-302  
 事務局次長 後藤 よしみ  
 〒335-0022 戸田市上戸田4-14-14-304  
 電話 080-7387-4435  
 事務局次長 中野 博夫  
 〒362-0043 上尾市西宮下5-74  
 電話 048-773-4693  
 会報委員 田口武、中野博夫、田中朋子

2026年度会費納入のお願い

今号に振込用紙を同封してありますので、  
 お振込みをお願いいたします。  
 埼玉県現代俳句協会のみの方 2000円

キ リ ト リ

電 氏 (ふりがな) 住  
 話 名 所

〒 -

キ  
リ  
ト  
リ

俳  
号

91号諸家近詠一句

(新かな・旧かな)  
どちらかを○で囲んでください。

(締切5月30日厳守)